

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年12月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0770600328		
法人名	医療法人 慈誠会		
事業所名	グループホーム ヨッシーⅣ		
所在地	〒975-0001 福島県南相馬市原町区上洪佐字北谷地1-8 (電話) 0244-24-6800		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなのビル302号室		
訪問調査日	平成19年11月30日	評価確定日	平成20年1月8日

【情報提供票より】 (平成19年9月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17人, 非常勤 0人, 常勤換算 13.8人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造在来工法 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 6,600 円
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要

利用者人数	17名	男性 6名	女性 11名
要介護1	3名	要介護2	6名
要介護3	7名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 87.8歳	最低 76歳	最高 96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 青空会、大町病院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路の近くであるが、自然豊かな環境の中にあり、広々とした敷地には同一法人の老健や居宅支援、訪問看護等の事業所があり、グループホームは2ユニットでA棟とB棟は離れており、個々の独立した建物となっている。敷地の周りには畑が広がり、近隣が離れており地域住民とのふれあいは希薄である。管理者を中心に職員の仕事へのモチベーションは高くチームワークも良好で、利用者の表情がとても穏やかである。職員は業務に必要な学習や資格取得に意欲的に取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価結果を全職員で話し合い、介護計画への家族の意見の反映や介護計画の見直しには、できるところからセンター方式等を取り入れ、改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価を積極的に活用していこうという前向きな姿勢で、職員全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	運営推進会議はまだ実施されていない。地域密着型サービスの観点から早急に運営推進会議の発足が望まれる。運営推進会議は定期的(2ヶ月に1回)に開催し、地域に開かれたサービスを目指して、地域との交流にさらに努められることが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族へは月1回、手紙でホームでの生活状況や金銭管理等の報告を行なっている。家族の多くは費用を持参されるので、その際に意見や意向は些細なことでも収集している。運営推進会議が設置されれば、さらに家族の意見や思いが容易に把握できるようになると思われる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	ボランティアの受け入れや、市が開催する講演会の講師としての要請等には積極的に応じている。敷地内での夏祭り(行政主導)は毎年行っているが、これが唯一地域との交流であり、日常的に地域との関わりは少ない。今後は法人と共に地域との連携を密にされることが望まれる。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての意義を踏まえ全職員で話し合い、独自の理念をを作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化を図り、日々の実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の敷地内で毎年、行政主導での夏祭りが開催されているが、これが唯一の地域と交流であり、日常的な交流までには至っていない。	○	運営推進会議の発足により、地域との交流は活発になると思われる。また、地域にホームだより等を配布し、ホームの行事への参加について積極的な働きかけをすることが望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は介護サービスの質の向上の基本であるとの認識から、職員全員で日々のサービスを振り返りながら課題を明らかにし、評価に取り組んでいる。この評価結果を踏まえ、今後のサービスに活かしていくことにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在までまだ実施していない。	○	運営推進会議の早急な発足が望まれる。法人の協力を得て行政や地域に働きかけ、早急に対応されることが望まれる。
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書送付の際に金銭管等の報告とともに利用者の様子を写真や手紙で報告している。また、毎月費用を持参する家族には来訪の際に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が結成されており、各行事には家族の方の参加があるので、面会時やあらゆる機会に要望を聴取し、速やかに改善する努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者との馴染みの関係の重要性を認識しており、職員の交代については十分考慮している。A棟とB棟の職員の異動はあるが、利用者とは十分にコミュニケーションをとり対応している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や職責等に応じて法人内の研修や外部研修に計画的に参加している。また、職員の資格取得に対して支援しており、資格取得した場合には待遇に反映させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会等に順番に出席し、情報交換をしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意なこと(料理、手芸、野菜作り等)や地域の習慣・行事等を教えてもらい、共に生活することを大切にされた支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常会話の中で利用者の思いを把握するよう努めている。確認した利用者の気持ちは職員間で情報を共有し、個々の希望に沿った支援をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者や職員は、面会時や電話等あらゆる機会に家族の意向の確認に努め、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は利用者の状態に合わせたものになっており、3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、介護計画の見直しを行っている。また、利用者の状況の変化に応じてその都度介護計画を見直し、ケアプランに反映させている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診には家族の同行を基本としているが、家族の都合や利用者の状況によっては職員が同行しており、受診結果は家族と情報を共有している。また、緊急時にはホーム指定の病院の受診について家族の了解を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化と終末期の方針を定め、入居時に家族等に話している。また、随時医師と連携し家族の意志を確認しながら支援しているが、利用者全員の「重度化や終末期の意志の確認書」等は作成していない。	○	家族等に再度「看取りに関する考え方」を説明し、重度化に伴う意志確認書等を早急に作成しておくことが望まれる。
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応の徹底を図っている。また記録はイニシャルで記入している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの基本的な1日の流れはあるが、利用者の体調や思いに配慮しながら、柔軟に支援している。食事、買い物、外出等利用者の希望を取り入れ支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はそれぞれ自分の役割を自然に行っており、利用者の状態に応じて盛りつけや配膳等をしている。職員も利用者も一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望を聞きながら入浴を支援しており、入浴時間、湯温等は利用者の希望により対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の力量に応じて、料理、掃除、洗濯物たたみ、農作業を職員と一緒にいき、張りのある日々を過ごせるよう支援している。ホームでは猫を飼っており、猫の世話も利用者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	散歩や買い物は利用者の体調や気候に応じて支援している。食材等の買い物には職員だけでなく利用者も順番に同行している。また、2~3人の小人数でドライブを楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はホームの玄関は施錠していない。ユニットごとに職員がさりげなく見守り、外出の気配を察知し、一緒についていくなど安全に配慮した自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年3回隣接する施設と共に実施している。また、夜間の職員間の通報システム(連絡時間の把握等)をホーム独自で実施している。災害時の食料品・飲料水の備蓄は法人内でなされている。	○	災害時の食料品、飲料水の備蓄については、ホーム独自でも整備することが望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人内の栄養士のアドバイスを受け、栄養のバランスに配慮しており、職員は利用者の食事量や水分摂取量等を把握している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、利用者が自由にくつろげるようテーブルやソファが配置されている。季節によりこたつも設置され、利用者が思い思いの場所で居心地よく過ごしている。日中はほとんどの利用者が共用空間に集まり過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔で明るく、利用者が家で使用していた物(タンス、写真、仏壇等)を持ち込み、それぞれ個性的な居室となっている。また居室ではテレビやCDラジカセで自由に過ごせるようになっている。		

※  は、重点項目。



### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム ヨッシーⅣ

記入担当者名 大井 千加子

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。